

神戸大学海事科学研究科博士前期課程中間発表プログラム

中間発表 (2011年4月5日火曜日)

第1会場 (深江キャンパス・総合学術交流棟・梅木Yホール)

講座副主任の挨拶と諸注意 08:50 - 08:55

(1-1) 阿佐 信吾 (段 智久) 09:00 - 09:15
内燃機関解析コード (HIDECS) を利用したディーゼルエンジンの燃焼解析

(1-2) 尾内 亮太 (段 智久) 09:15 - 09:30
ジメチルエーテルを利用したディーゼル燃料の特性改善に関する研究

(1-3) 色見 晃輔 (段 智久) 09:30 - 09:45
水エマルジョン化によるバイオ燃料の燃焼特性変化に関する研究

(1-4) 田中 祥太 (段 智久) 09:45 - 10:00
多段噴射式ディーゼルエンジンによるバイオ燃料の燃焼解析

(1-5) 水庫 誠 (段 智久) 10:00 - 10:15
船用重質油のジメチルエーテルによる燃焼改善に関する研究

休息・時間調整

(1-6) 小丸 維斗 (藤本岳洋) 10:20 - 10:35
画像相関法を用いた熱応力破壊問題に関する実験的研究

(1-7) 根岸 佑多 (藤本岳洋) 10:35 - 10:50
移動有限要素法によるシェル構造物におけるき裂進展現象の数値解析

(1-8) 野上 達矢 (藤本岳洋) 10:50 - 11:05
VNA交代繰り返し法を用いた表面半だ円き裂の相互干渉問題の高精度解析

休息・時間調整

(1-9) 北野 堅祐 (福岡俊道) 11:10 - 11:25
ボルト締結体の疲労強度に対する界面分離現象の影響に関する研究

(1-10) 森 宇一郎 (福岡俊道) 11:25 - 11:40
らせんモデルによるねじ部品の焼き付き現象の解析

(1-11) 松山 貴則	(福岡俊道)	11:40 - 11:55
熱負荷にロバストである締結部の設計手法に関する研究		
(1-12) 丸尾 友輔	(福岡俊道)	11:55 - 12:10
熱膨張法による大型ボルトの締付け過程の熱および力学挙動の評価		
(1-13) 稲垣 瞬	(福岡俊道)	12:10 - 12:25
数値解析による重ね継手の最適ボルト配置に関する研究		
(1-14) 房田 基嗣	(福岡俊道)	12:25 - 12:40
ねじりモーメントを受けるフランジ型軸継手の三次元有限要素解析		

第2会場（深江キャンパス・総合学術交流棟・梅木Nホール）

(2-1) 成田 祐生	(山本茂広)	09:00 - 09:15
ステレオ画像の距離情報に基づく自律移動ロボットの走行経路教示に関する研究		
(2-2) 加藤 壮一郎	(山本茂広)	09:15 - 09:30
船舶のステレオ画像計測		
(2-3) 竹内 悠次郎	(三島智和)	09:30 - 09:45
高周波パルス幅変調制御非絶縁昇圧形DC-DCコンバータの高効率化に関する研究		
(2-4) 海部 俊介	(山内知也)	09:45 - 10:00
新しい固体飛跡検出器としてのポリイミド薄膜		
(2-5) 深尾 裕亮	(山内知也)	10:00 - 10:15
二酸化炭素を吸蔵させた PADC 検出器の特性評価		
(2-6) 森本 彰	(山内知也)	10:15 - 10:30
PET 薄膜中重イオントラックの構造分析		

休息・時間調整

(2-7) 三芳 侑記	(北村 晃)	10:35 - 10:50
Pd・Ni・Zr酸化物ナノパウダの水素同位体吸収における試料酸化効果		
(2-8) 小林 克年	(佐俣博章)	10:50 - 11:05
オキシ水酸化物の蛍光特性における元素置換効果		
(2-9) 梶川 覚史	(勝井辰博)	11:05 - 11:20
オープンソースCFDコードを用いたクローラ型ROV周りの流場解析		

(2-10) 前川 一真 (武田 実) 11:20 - 11:35
液体水素用MgB₂液面センサーの液面検知特性

休息・時間調整

(2-11) 山下 恭平 (藤田浩嗣) 11:40 - 11:55
外部混合式噴射弁を用いた混合燃焼による排ガス特性

(2-12) 影山 朋久 (藤田浩嗣) 11:55 - 12:10
静電水噴霧スクラバーによる微粒子の捕集

(2-13) 長 正和 (藤田浩嗣) 12:10 - 12:25
船舶排ガスの拡散シミュレーション手法に関する研究

(2-14) 徐 樹 (福田勝哉) 12:25 - 12:40
発熱のある物体周りの強制対流過渡熱伝達に関する研究

注) 中間発表を行う院生は当日8時50分に第1会場に集合する。原則として括弧内に記載した指導教員が司会を行うが、必要に応じて交代する。

発表時間10分、質疑応答5分(登壇交代時間等を含めて)とする。

第1鈴令(8分)、第2鈴令(10分)、第3鈴令(15分)とする。

両会場のプロジェクターは、最初に発表を行う院生の所属研究室で調整・準備する。
パソコンについては「休息・時間調整」で区切られるブロック毎に同じものを使用するのが望ましい。

各自、円滑な進行に協力する。